

開かれた技術者倫理のありかた 株式会社東芝へのインタビュー

電気学会 倫理委員会

事業維持員企業への技術者倫理教育活動インタビューの第1弾として、東日本大震災後（3月29日）に、(株)東芝 田井一郎代表執行役副社長（平成20年度会長）（写真）にインタビューに伺いました。



—田井さん、御社はこの大災害に対し、いち早く救援の手を差し伸べていると伺っていますが。

田井：当社からは、仮設及び復興住宅向けに、太陽光発電システム及び省エネ型家電機器100世帯分等の提供をさせていただいています。また、原子力の関係では、当社から現地を含めて、1000人程度が交代で

対応しています。

—以前は、原子力のPA（Public Acceptance）活動を随分やられましたが、最近はどうでしょうか。

田井：今回のように放射線量などの数字だけが発表されても、その意味がなかなか一般の方には理解していただけないという問題があります。今回の報道発表に対する一般の人々の反応をみていますと、放射線への理解がまだまだ不十分と思いました。原子力と同居している日本人は、もっと原子力を理解する仕組みを作らなければならないと思います。

—この問題は重要ですね。ところで、御社はCSR（Corporate Social Responsibility）活動¹⁾で表彰されていますが、CSRと企業倫理・技術者倫理に関する考え方を紹介願います。

田井：CSR活動は非常に重要で、特に当社のCSRは、1987年の東芝機械ココム違反事件に源流があります。当時輸出管理から発展し、多面的に活動が発展しました。

—どういう活動でしょうか？

田井：当社関係会社（542社）が中心になって活動しています。当社も輸出が売上げの6割が占めているので、外国籍従業員も多くCSRを担っています。ダイバシティについても重要で、多様性推進部を中心に、女性の一層の活躍を推進しています。

—技術者倫理教育・研修について教えてください。

田井：当社グループには研修専門機関として「東芝人材開発」という子会社があります。そこでの座学の他に、e-Learningも実施しています。技術者倫理教育、輸出管理教育等、年間10回程度受けます。技術者倫理は日本語版、英語版、中国語版、タイ語版があります。

—受けたかどうかはどうやって確認するのですか。

田井：コンピュータ化され、自動的に集計されます。

—国際化にはどのように対応されていますか？

田井：まず社内外のウェブサイトを充実させています。東芝グループ内では、イノベーションの諸活動、東芝全体の動きは英文ですべてみられるようになってきました。各社の責任者には、その内容をメールで直接送って浸透させています。イノベーション推進については、世界中を回って、若い人と対話会もしています。今期は72事業場にいきましました。海外は1回に5か所ぐらい訪問します。

—すごいですね。英語圏でないところではいかがですか？

田井：英語は通じます。日本より皆よくしゃべります。

—ご自身の体験で倫理に関わるものをご紹介ください。

田井：東芝機械ココム違反事件の時はまだ現場の担当でしたが、会長と社長がやめられたのはショックでした。政治が絡む問題と認識しました。2006年の流量計データ改ざん問題の時は担当の統括技師長でした。本件が、技術者倫理教育を強化した一連の理由です。技術者だけではなく、全員に倫理教育が必要ですし、日頃からなんでも言える環境作りが大切だと考えています。

電気学会も、倫理綱領を、毎月発行している学会誌に掲載するなど、日頃からの啓蒙活動が必要だと思います。

—日常の積み重ねですね。CSRレポートで使われているIntegrityというのは良い言葉ですね。皆が自分で考え、コミュニケーションをよくしていくということが大切ですね。本日はありがとうございました。

倫理委員会では、技術者倫理の啓蒙活動に加えて、広報委員会と協力して、電力エネルギーについての広報活動にも貢献いたします。

（インタビューア：電気学会倫理委員会 白田誠次郎（日本工営(株)）、土井美和子（(株)東芝）。紙面の都合上、インタビューを短縮してまとめています。）

1) 東芝CSRレポート2010

http://www.toshiba.co.jp/csr/jp/engagement/report/index_j.htm